

高国木曽ひのきブランド化10周年を迎えて ～木曽谷の林業・木材産業を考える集い～

ブランド材で

木曽地域の人工林ひのきは天然ひのきと同様の厳しい環境に育ち、材として非常に優れています。天然ひのきに劣らない質の高齢級人工林ひのきを「高国木曽ひのき」と名付けて10年となりました。これを契機とし、地域の林業・木材産業発展のため、ブランド材としてのさらなる普及を目指します。

令和5年（2023年）

10月18日 9:00～12:15頃

上松町ひのきの里総合文化センター

（裏面参照）

参加費無料

開場 8:30

開会 9:00



未来

をつくる

PROGRAM

1 特別講演「高国木曽ひのき誕生の経緯と木曽谷林業の将来展望」

2 事例動画「突撃！木曽のひのきはいったいどこへ？」

#まさかの長崎 #県産材への拘り #上質な木の家を」

3 講演「木の国・木曽の「文化と産業のシンボル」としての庁舎建設」

4 パネルディスカッション「木曽ひのきブランド材の今後を見据えて」

※同時開催：ブランド材製品・林業従事者フォトコンテスト入賞作品展示

5 限定企画：木曽町庁舎見学《定員30名》



GUEST



特別講演（コーディネーター）

すずき しんや
鈴木 信哉

ノースジャパン素材流通協同組合理事長
（元中部森林管理局長）



講演

ちだ ゆうき
千田 友己

株式会社千田建築設計 共同代表
（木曽町役場本庁舎設計者）

【パネリスト】

植木 達人 信州大学学術研究院 教授

大屋 誠 上松町長

勝野 泰平 株式会社勝野木材 常務取締役

原田 浩幸

郷原 辰実

木曽官材市売協同組合 専務理事

木曽森林管理署長

（敬称略）

主催 中部森林管理局木曽森林管理署

共催 木曽官材市売協同組合・木曽木材工業協同組合

後援 長野県木曽地域振興局・木曽郡町村会・木曽郡町村議会議長会・木曽地域木材産業振興対策協議会
長野県木材協同組合連合会・長野国有林森林整備協会（順不同）

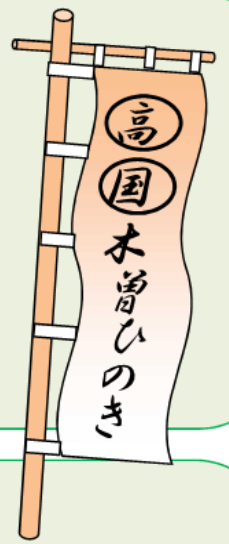
問い合わせ先 中部森林管理局木曽森林管理署 tel: 0264-52-2083

マルコウ マルコク

高 国 木曾ひのき

齡級 有林

木曾森林管理署、南木曾支署では、平成 25 年度より木曾谷の国有林野から生産される、林齢 80 年生以上の高齢級人工林ヒノキについて、良質な素材を「高 国 木曾ひのき」（呼称：マルコウ マルコク キソヒノキ）と称して販売しています。



極印の押印



80 年生以上の人工林ヒノキの内、以下の丸太の木口に極印を打ちます。

- ① 長級 4m 以上かつ径級 30cm 以上の尺上材
- ② 長級 4m 以上かつ径級 24cm から 28cm の中目材
ただし、①②のうち、曲材、多節材は除きます。
- ③ 極印は、右の 3 種類を使用します。（左から林齢 80～99 年生、100～119 年生、120 年生以上）



資源の活用に向けて

木曾谷の国有林野の面積は、89,452ha を有し、天然林が 55%、人工林が 45% となっています。人工林に占めるヒノキ林の割合は 67% で、この内、80 年生以上の高齢級ヒノキは、約 30%*（約 8 千 ha 約 247 万㎡）を占め、中でも明治 20 年（1887 年、126 年前*）に植栽されたヒノキ林（大桑村天ノ洞国有林）が、最も古い人工林ヒノキ林として存在しています。

今後、70% を占める 79 年生以下の人工林ヒノキが順次生育し、高齢級ヒノキの蓄積が増えることが期待されることから、継続的な「高 国 木曾ひのき」の生産・販売に努めて参ります。

※本チラシは 10 年前のブランド材発足当時のものを活用しております。

高齢級ヒノキの特徴

木曾谷から産出される 80 年生以上の人工林ヒノキは、

- ① 厳しい自然条件で生育しているため、年輪が緻密で狂いが少ない。
- ② 淡黄白色の精楚な色合いを呈し、香気と光沢に富んでいます。

会場案内図



駐車場はお問い合わせください

お問い合わせ先 中部森林管理局木曾森林管理署 (tel 0264-52-2083)
木曾官材市売協同組合 (tel 0264-52-2480)